

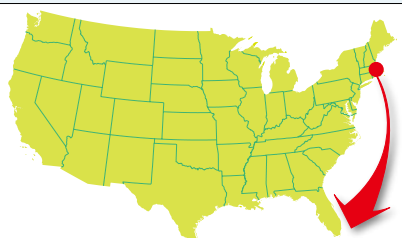
# 失敗しないための 海外留学支援ガイド

タフツ大学編：前編

築山鉄平



2000年、九州大学歯学部卒業。  
2001年、佐賀医科大学（現佐賀大学）  
歯科口腔外科学講座。2004年、勤務  
医を経て2006年、タフツ大学歯学部  
歯周病科大学院レジデント。2009年  
6月、同大学院卒業（最優秀臨床賞受  
賞）Master Degree 取得。2009年  
7月～同大学審美歯科 fellow ship。



**【大学データ】** 米国マサチューセッツ州ボストン市に位置する私立の総合大学。医学部、歯学部は世界屈指の実績を誇る。

**【地域データ】** ボストンは人口約60万人の東海岸の一都市。ボストン近郊を含め、ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学、ボストン大学、タフツ大学、ウェルズリー大学など世界的に有名な大学計60以上もの大学が存在し、それゆえ極端な「学園都市」と呼ばれる。人口の多くを学生が占めるため、ボストン住人の平均年齢が約26歳ともいわれている。比較的安全な街として知られ留学生も含め、多くの日本人が滞在する。

学年の定員が6～8名となっており、修了年限は原則3年、Master Degreeも同時に履修する場合は4年に及ぶこともあります。

大学院教育は3つのコアから成り立っています。1つ目はDidactic Courseという基礎科目や関連臨床を中心とした座学で15、6科目履修しますが、Master Degreeを履修する学生はそのほぼ全科目で80点以上を取

得しなければなりません。

2つ目はその分野の専門医教育で、論文抄読、症例供覧、治療計画のディスカッションが中心です。治療計画や術式は科学的根拠に基づいていることが求められるため、豊富な量の論文を深く、正確に理解することが要求されます。

3つ目はクリニックにおける臨床です。実際に患者さんを診ながらトレーニングを受けます。この臨床トレーニングが、タフツ大学歯周病大学院の最大の長所といえると思います。病院の立地条件の良さも手伝って非常に豊富

な数と質の歯周外科、インプラント外科の臨床経験を積むことが可能です。

## 海外留学の動機

九州大学歯学部生の時に歯科医師である父の薦めでワシントン大学歯周病科に当時留学されていた藤本浩平先生（現東京都開業）を訪問し、見学したことが留学に対する熱意に火をともしきっかけとなりました。卒業後は3年間、佐賀医科大学（現佐賀大学）口腔外科学講座に在籍しました。その後2年間、矢澤一浩先生（元日本顎咬合学会会長、東京都開業）に師事し、勤務医として働きながら、同時に留学への準備の手続きを行い、大学院への入学となりました。

次号では留学に必要な内容とその後について述べたいと思います。（次号につづく）

## 歯科通訳（同時・逐次）

36年・10,000件以上の実績を誇ります。

03-3508-1215  
trans@convention.co.jp  
<http://www.convention.co.jp>

International Communication  
日本コパレソジョナサービス株式会社

現在のタフツ大学歯学部。2009年11月既存の歯学部ビルに6階造築完了。



筆者（写真左）のクリニックでの診療風景。

## タフツ大学歯周病科大学院の特長

周知のようにアメリカの歯科制度には専門医制度があり、その分野の専門医となるべく集中的に臨床技術、またその裏打ちとなる知識が授業、治療計画セミナー、論文抄読、ディスカッションを通じて十分に教授されます。

当時、私が所属していた歯周病大学院（Postgraduate program）は、1